



# 小学校知的障害特別支援学級のための 国語科の指導内容系統表 ～概要と使い方～

令和4年度 群馬県総合教育センター 長期研修員

中嶋洋平



## 目次

1 はじめに .....	1
2 指導内容系統表の活用により目指すもの .....	2
3 指導内容系統表の概要 .....	3
4 指導内容系統表の活用の仕方 .....	5
5 参考文献・Web サイト .....	7

## 1 はじめに

この指導内容系統表（以下、本表）は、小学校の知的障害特別支援学級で、児童の実態に応じた国語科の指導内容を設定するとともに、その指導のための具体的な準備を助け、それらにより、個に応じた指導の充実を図り、児童の学びに向かう姿を引き出すことを目指して作成したものです。軽度の知的障害があり、当該学年の学習が困難な児童に下学年の内容を指導することで、確実に学習を積み重ねていけるようにすることを念頭に置きました。

本表では、入学から卒業までの6年間で扱う国語科の内容を、就学前教育期の後半から小学3年までのものとしました。そして、その内容を1年ごとに段階を追って指導できるように、以下の「学習させたい段階と使用する国語の教科書等」の表のように段階付けし、さらにそれぞれの段階ごとに使用する教科書などを対応させました。ここでの一年一年を「ステージ」と呼びます。なお、本表で扱う教科書は光村図書出版の「こくご一上」から「国語三下」までのものです。

学習させたい段階と使用する国語の教科書等

学年	ステージ	学習させたい段階	使用する国語の教科書等
6年	6	3年の後半	3年下巻
5年	5	3年の前半	3年上巻
4年	4	2年の後半	3年上巻
3年	3	2年の前半	2年下巻
2年	2	1年の後半	1年下巻
1年	1	就学前教育期後半から 小学1年の前半	導入的な内容のプリント等 1年上巻

本表はパーソナルコンピュータ上での使用を前提に、表計算ソフトの Excel<sup>1)</sup>で作成したものです。後述する評価（4 指導内容系統表の活用の仕方（2）の②を参照のこと）の際は、画面上で直接入力することができます。また、PDF 版を印刷して使うことも可能です。あらかじめ A4 で印刷する設定にしていますが、必要に応じて B4版やA3版で拡大印刷してください。Excel ファイルから印刷する場合は、画面表示やプリンターの拡大率・縮小率の設定によってセル内の句読点や記号の位置が変わって行頭から表示されたり、印刷の位置がずれたりすることが起こります。そのようなことが気になる場合は文言を変えていただくなどして、お使いください。なお、本表は、少しでもお使いいただく先生方の役に立てばと願っているため、お手元にダウンロードした上で、実情に合わせた加除訂正をしていただいても構いません。そのため、画面と印刷がずれることが気になるほか、時数を変えたい、教材を加えたいといった場合にも、ご自身の実情に合わせて改変していただければと思います。詳細な使い方は、「3 指導内容系統表の活用の仕方」を御覧ください。

本表が、お使いいただく先生方の業務に役立つものとなるとともに、児童の学びに向かう姿を引き出し、知的障害特別支援学級における個に応じた指導の充実につながれば幸いです。

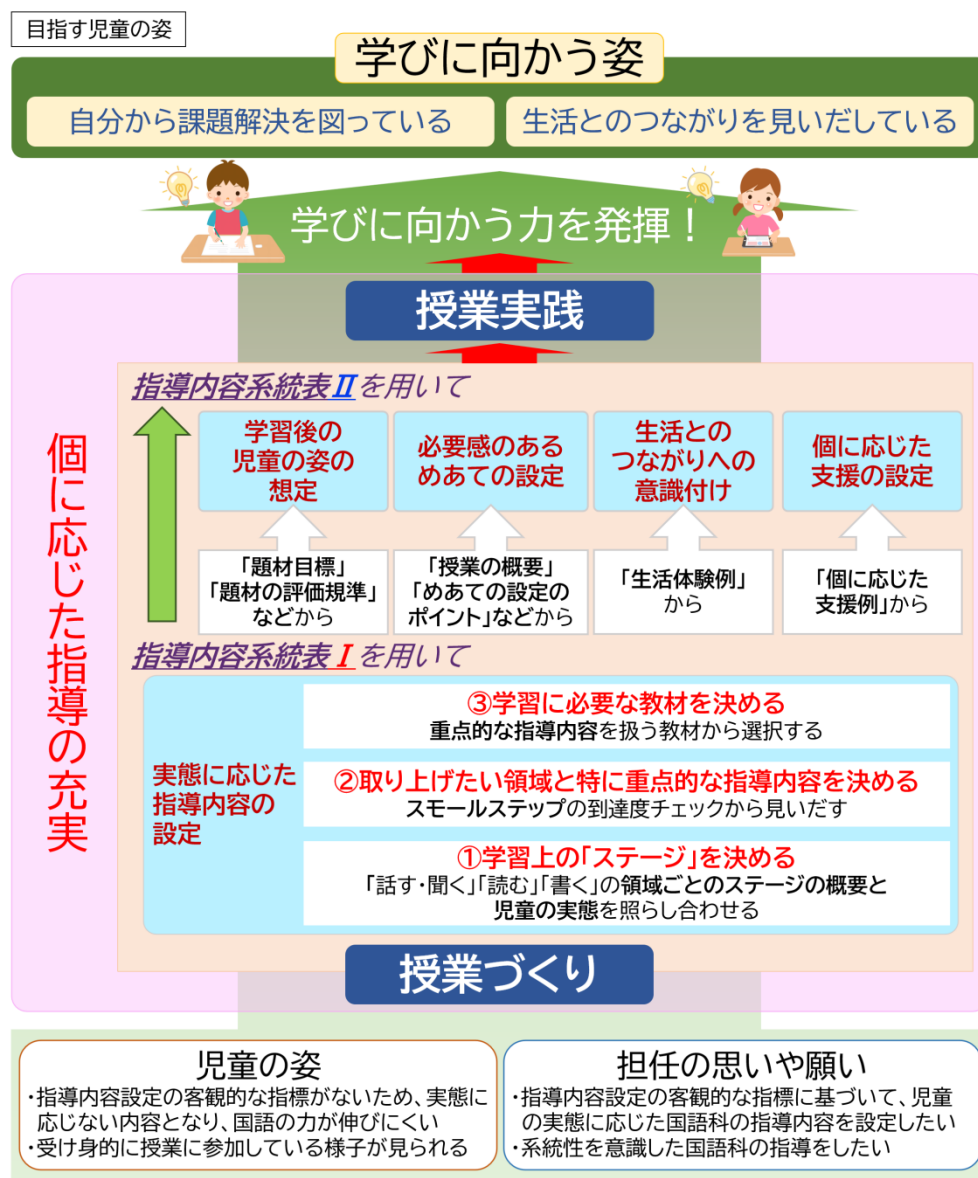
1) 本報告書に掲載されている商品またはサービスなどの名称は、以下の商標または登録商標です。

<各社の商標または登録商標>

Microsoft Excel は、Microsoft Corporation の米国及びその他の国における商標または登録商標です。

## 2 指導内容系統表の活用により目指すもの

本表の作成と活用にあたり、以下のように研究を構想しました。

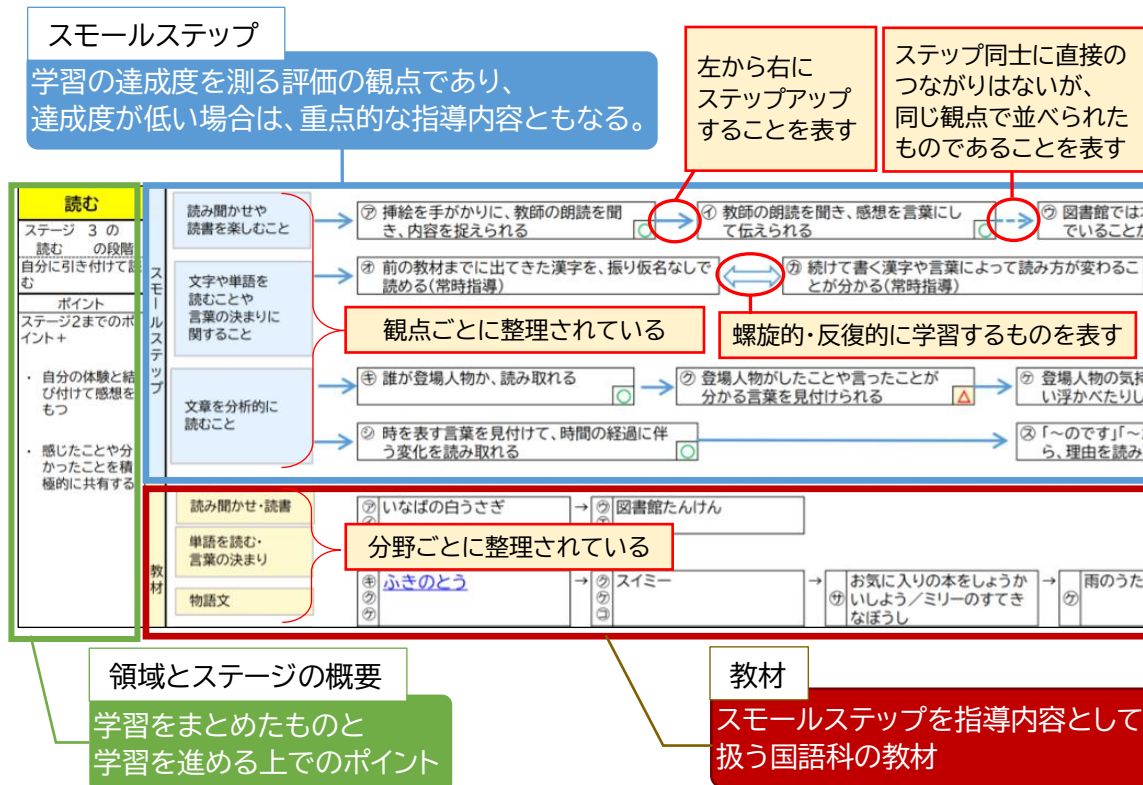


指導内容系統表の活用法は、「実態に応じた指導内容の設定」「学習後の児童の姿の想定」「必要感のあるめあての設定」「生活とのつながりへの意識付け」「個に応じた支援の設定」の五つの要素から成る授業づくりのために参照することです。指導内容系統表Ⅰを用いることで、「実態に応じた指導内容の設定」を行い、指導内容系統表Ⅱを用いることで、「学習後の児童の姿の想定」「必要感のあるめあての設定」「生活とのつながりへの意識付け」「個に応じた支援の設定」を行います。この授業づくりに基づいた授業実践により、児童の学びに向かう姿を引き出すことができると考えます。また、指導内容系統表の活用により、目の前の児童が、国語科の学習上どのステージにいるのか、そのステージの中で、どのような学習に取り組ませたらよいのかということが、把握しやすくなります。

### 3 指導内容系統表の概要

#### (1) 指導内容系統表Ⅰ

以下のような構成となっています。



本表Ⅰの中心的な項目は「スモールステップ」です。これは、教科書にある各教材を、「七五調」「『問い』と『答え』という構造」のような文章の特徴や、「話し合う」「観察記録を付ける」といった中心的な活動、各教材の指導目標といった観点で分析したときに考えられる、具体的な指導事項です。各ステージの指導内容を、以下に述べる領域ごとに細分化したものであることもできます。学習の達成度を測る評価の観点として用いることができるとともに、達成度が低い場合は、重点的な指導内容ともなるものです。

本表では、指導内容を「話す・聞く」「読む」「書く」の三つの領域に分類しました。そして、それぞれの領域ごとに、該当するスモールステップと教材を配列しました。その際、スモールステップを観点ごとに整理し、さらにその内容がステップアップするように配列しました。また、教材も分野ごとに整理し、内容がステップアップしていくように配列しました（概ね教科書に収録された順にもなっています）。



## (2) 指導内容系統表Ⅱ

以下の表のような項目で構成されています。実物を参照しながら、御確認ください。指導内容系統表で以下の項目ごとに示されている具体的な事柄は、あくまでも例示です。児童や学級の実態に応じて、改変して御使用ください。

項目	内容
教材名	教材の名称です。
題材	その教材を通じて学ばせたい学習テーマです。教科書に「単元扉」のページがある教材は、そのページに記載された単元の目標を、ない教材は、本文から学習テーマとして読み取れることを記しています。
指導内容系統表Ⅰの関連スモールステップ	その教材の中で指導内容として扱われることになる、スモールステップです。
題材目標	学習指導書別冊に記載されているものを参考に作成した目標です。児童の実態に応じて、より具体的に設定することもよいと考えます。
総時数	その教材を用いた単元の総時数です。学習指導書別冊等に応示された時数より長い時間をかける単元が多いですが、ステージⅠ以外は全単元の時数を足しても、その学年の標準時数には達していません。余剰時間には既習事項を定着させる学習や、さらに学習が必要と思われる関連した学習などを取り入れてください。
授業の概要	Ⅰ時間ごと、または学習のまとまりごとの、大まかな内容です。
ねらい	Ⅰ時間ごと、または学習のまとまりごとに、達成させたい目標です。
めあての設定のポイント	<p>本表におけるめあてとは、Ⅰ時間ごと、または学習のまとまりごとの授業のねらいと、児童の興味関心や願いといったものが関連付けられて、児童の言葉で記された、授業の中で目指すものです。それを設定する上でポイントになることを記しています。</p> <p>なお、表内ではスペースを節約するために、漢字かな交じり文でめあての例を記しています。児童に提示する際は、平仮名表記にするなど、実態に応じて変えてください。</p>
学習にあたり身に付いていることが望ましい力	その教材を用いた学習に取り組む上で、身に付いていることが望ましい力です。
個に応じた支援例	学習上の困難を軽減し、学習に取り組みやすくするための環境設定や、教材教具のこと等です。
題材の評価規準	学習指導書別冊に記載されているものを参考に作成した評価規準です。題材目標を児童の実態に応じて設定するのに合わせて、具体的に設定することもよいと考えます。

#### 4 指導内容系統表の活用の仕方

##### (1) 活用にあって

指導内容系統表は、関連資料とともに、フォルダの中に収められています。対象児童を決め、その児童について評価をするのに用いるため、児童ごとにコピーしてお使いください。コピーしたらフォルダと本表両方のファイル名に、対象の児童名を入れてください。また、Excel ファイルのヘッダーにも評価の年月と児童名を入れる欄があるので、そちらも記入してください。また、必要に応じて、関連資料もご活用ください。

活用のタイミングとしては、単元ごとに計画を立てるときのほか、個別の指導計画作成時に用いることが考えられます。個別の指導計画の作成にあたり、本表を用いて国語科の指導内容を設定すれば、それを個別の指導計画に反映させることができます。また、後述の「スモールステップ」を用いた評価を単元の終了時に行えば、指導前後の変容を確認することができます。また、学期末評価のタイミングで行えば、その学期に設定した指導内容に対する、指導前後の変容を確認でき、次の学期に取り上げる指導内容を決めることにもつながります。

##### (2) 指導内容系統表Ⅰを用いた、実態に応じた指導内容の設定

###### ① ステージを決める

まず、児童の学習の状況と各ステージの本表Ⅰにある「領域とステージの概要」を照らし合わせて、対象となる児童はどのステージかを決めます。

各領域の「領域のステージの概要」と児童の実態を照らし合わせて児童のステージを決めます。

###### ② 取り上げたい領域の中の重点的な指導内容を決める

ステージを決めたら、各領域の「スモールステップ」を用いて、表のような三段階評価を行います。△が付いた項目を見て、取り上げたい領域と、その中の重点的な指導内容を決めます。

スモールステップの達成の度合い	記号
自分の力で完全に達成している	◎
時々不十分では見られるが、自分の力でほぼ達成することができる	○
達成に支援を要する	△

読む

ステージ 3 の読むの段階  
自分に引き付けて読む

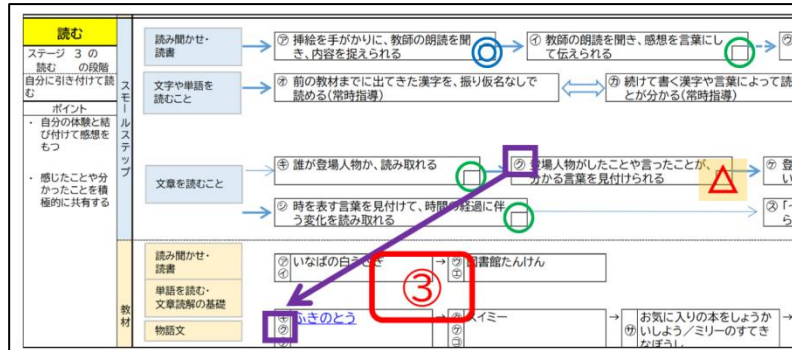
ポイント

- 自分の体験と結び付けて感想をもつ
- 感じたことや分かったことを積極的に共有する

実際の表内ではドロップダウンリストを使って◎○△を選びます。

### ③教材を決める

取り上げたい領域の中の重点的な指導内容が決まったら、それを指導内容として扱う教材を決めます。



### (2) 指導内容系統表Ⅱを用いた、授業に向けた具体的な準備

本表Ⅰで決めた教材のところをクリックすると、Ⅱの中の該当教材の欄を開くことができます。本表Ⅱを用いて、下の画像の右上にある、授業づくりのうちの四つを行うことができます。こうすることで、学びに向かう姿を引き出すことができると考えます。その他、単元計画に反映させたり、個別の指導計画に反映させたりすることができると考えます。

読み聞かせ・読書

単語を読む・文章読解の基礎

物語文

いなばの白うさぎ

ふきのとう

学習後の  
児童の姿の  
想定

「題材目標」  
「評価規準」  
などから

必要感のある  
めあての設定

「めあての設定の  
ポイント」などから

生活との  
つながりへの  
意識付け

「生活体験例」  
から

個に応じた  
支援の設定

「個に応じた  
支援例」から

教材名	題材名	指導内容系統表Ⅰの 領域・単元・ステップ	題材目標	授業の概要	ねらい	めあての設定のポイント	学習にあたり身に付いていることが望ましい力	生活体験例	個に応じた支援例	題材の評価規準
ふきのとう	おはなしを読み、やくにわかれて音読しよう	① 読み聞かせ・読書 ② 単語を読む・文章読解の基礎 ③ 物語文	【知】話のまわりや言葉の響きなどに気をつける。 【思】場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。 【学】言葉がもつよさを感ぜるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	① 冬と春、それぞれの温度や、その季節ならではのものを思い起こす。冬から春にかけて生き物はどんな思いで待っているか想像する。 ② 登場ごとに、誰が何を言ったか、どんな動きをしているかなど、役立てをもとに考える。「J」の言葉の読み方を考えて読む。 ③ 話の流れを振り返り、それぞれの登場人物が春を迎えてどんな気持ちになったか想像する。	① リード文の「はるをまつ」視点を捉える。 ② 「はるをまつ」視点を捉える。 ③ 「はるをまつ」視点を捉える。 ④ 「はるをまつ」視点を捉える。 ⑤ 「はるをまつ」視点を捉える。 ⑥ 「はるをまつ」視点を捉える。 ⑦ 「はるをまつ」視点を捉える。 ⑧ 「はるをまつ」視点を捉える。 ⑨ 「はるをまつ」視点を捉える。 ⑩ 「はるをまつ」視点を捉える。	「はるをまつ」視点を捉える。 「はるをまつ」視点を捉える。 「はるをまつ」視点を捉える。 「はるをまつ」視点を捉える。 「はるをまつ」視点を捉える。 「はるをまつ」視点を捉える。 「はるをまつ」視点を捉える。 「はるをまつ」視点を捉える。 「はるをまつ」視点を捉える。 「はるをまつ」視点を捉える。	季節ごとに「はるをまつ」視点を捉える。 季節ごとに「はるをまつ」視点を捉える。 季節ごとに「はるをまつ」視点を捉える。 季節ごとに「はるをまつ」視点を捉える。 季節ごとに「はるをまつ」視点を捉える。 季節ごとに「はるをまつ」視点を捉える。 季節ごとに「はるをまつ」視点を捉える。 季節ごとに「はるをまつ」視点を捉える。 季節ごとに「はるをまつ」視点を捉える。 季節ごとに「はるをまつ」視点を捉える。	【知】話のまわりや言葉の響きなどに気をつける。 【思】場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。 【学】言葉がもつよさを感ぜるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。		

なお、リンクを開くと、教材名の列が網掛けで表示されます。リンクの設定上のもので、別のセルや余白をクリックしていただければ消えます。

また、「学習にあたり身に付いていることが望ましい力」の欄には、その単元の土台となる関連内容のリンクが設定されているところもあります。必要に応じて参照してください。



## 5 参考文献・Web サイト

- ・文部科学省(2017)『小学校学習指導要領(平成 29 年3月告示)解説国語編』東洋館出版社
- ・山元薫・笹原雄介(2020)『知的障害のある子供のための国語、算数・数学「ラーニングマップ」から学びを創り出そう』ジアース教育新社
- ・甲斐睦朗ほか(2020)『こくご一上』『こくご一下』『こくご二上』『こくご二下』『国語三上』『国語三下』光村図書出版
- ・甲斐睦朗ほか(2020)『小学校国語科学習指導書別冊(1～3年)』光村図書出版
- ・徳永豊・田中信利(2019)『障害の重い子どもの発達理解ガイド 教科指導のための「段階意義の系統図」の活用』慶応義塾大学出版会
- ・群馬県総合教育センター(2019)『特別支援学級教育課程編成ガイドブック』  
<https://center.gsn.ed.jp/wysiwyg/file/download/1/2398>
- ・小学館「みんなの教育技術」<https://kyoiku.sho.jp/>

◆本資料、指導内容系統表、および関連スライド資料のイラストは、以下の Web サイトからダウンロードしたものです。

- ・photoAC(<https://www.photo-ac.com/>)
- ・illustAC(<https://www.ac-illust.com/>)
- ・いらすとや(<https://www.irasutoya.com/>)
- ・イラストエイト(<https://illust8.com/>)
- ・イラストカット.com(<https://illustcut.com/>)